

菅江真澄と巡るあきたの道

「道の駅」から菅江真澄と旅をする「スタンプラリー」が開催されました！

秋田県の旧羽州街道沿い（国道13号、7号、101号）の「菅江真澄と巡るあきたの道」により、『道の駅』から菅江真澄と旅をするスタンプラリー』が令和3年6月1日～令和4年1月15日まで開催されました。

「菅江真澄」は、今から200～250年前の江戸時代、三河国出身の紀行家です。東北地方から北海道を巡り歩き、秋田では最も長く29年もの間滞在し、この地域の風景、人々の暮らし、産物などを色彩豊かな図絵や文章に残しました。

図絵は、なんと2500枚以上。これだけ地域の図絵を残していることは世界的に例をみないのではないのでしょうか。

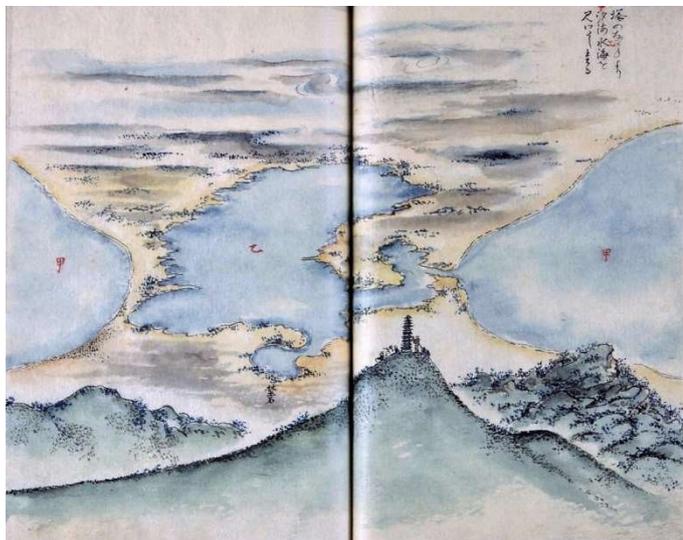
県内各地に当時の風景や産物が変わらず維持されています。ルート上には菅江真澄に関する説明板、歌碑、標柱が設置されており、図絵と見比べ、時代を超えて当時に思いをはせることができます。



▲「スタンプラリー」PRポスター。「道の駅」の日（4月22日）からスタート予定であったが、新型コロナウイルスの影響で6月スタート。開催期間が短くなったにも関わらず、950名もの参加者の応募があった。



▲江戸時代に菅江真澄が描いた「図絵」と「現在の風景」（唐松神社参道の杉並木）



▲「八郎潟」の図絵と現在の「八郎潟干拓地」



「なまはげ行事」についても描かれている▶



今回のスタンプラリーは、秋田県内の全ての「道の駅」33箇所を巡るスタンプラリーで、「菅江真澄と巡るあきたの道」では初めての試みとなります。

菅江真澄の認知度を上げることを目的として、スタンプラリーの台紙では巡り先の33箇所の「道の駅」ごとに近くの菅江真澄の足跡が紹介されました。

全ての「道の駅」33箇所を巡るAコースと半分のBコースが設定され、参加者はスタンプを押し終えた台紙を、ルート事務局まで郵送にて応募します。応募総数は、予想を超える950通ありました。

国土交通省秋田河川国道事務所に会場を設置して、厳選な抽選会が行われ、A、Bコース33名ずつの計66名が選ばれ、当選者には景品として各「道の駅」からのおすすめ商品が送られました。

参加者からは「菅江真澄というすごい人がいたことを初めて知った」「コロナ禍にであっても道の駅のスタンプラリーは家族だけで自動車でもわるので安心感があった」「コロナ禍で県外自粛のなか、秋田のいい所を発見できた」「ますます道の駅に行くことが楽しくなった」などの好意的な感想が寄せられ、菅江真澄の知名度向上だけでなく「道の駅」の魅力向上にも効果が期待されます。

